

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	生物機能解明をめざす糖タンパク質の統合的合成研究	研究代表者名	伊藤 幸成
-------	--------------------------	--------	-------

該当箇所()に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア() 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
糖タンパク質合成に挑戦する最先端グループによる重要な研究であり、引き続き推進すべきである。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ() 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
着実に成果があがっており、今後の発展に期待する。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ() そ の 他

意見：
生物活性を評価する分担者を加えるなど、組織を見直すことも、今後の更なる発展にとって重要と思われる。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア() 期待以上の成果をあげている
- イ() 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
日本の糖化学を率いるリーダー的な研究になりつつある。人工糖タンパク質の機能研究が進めば創薬への実用化の道が期待される。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア () 有機的に連携が保たれている
- イ () あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ () その他

意見：
糖化学とタンパク質化学のそれぞれ得意な方法論が活かされ、有機的な連携が保たれているが、さらに広く協同研究を展開すれば、より大きな成果につながるものと思われる。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア () 効率的・効果的に使用されている
- イ () あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ () その他

意見：

6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

有機合成化学の究極の目標のひとつである糖鎖および糖タンパク質合成での世界の拠点としての先駆的研究が展開されていると評価できる。

本研究のテーマは、タンパク質の構造変化に糖鎖がどのような変化を与えるかであり、その解明のために純粋な大きなタンパク質の合成などに努力が払われている。しかし、目的タンパク質を明解にすることや酵素活性などの目標を示すことも必要であり、その観点から、生物学者との共同研究が重要となろう。これまでの実績を、どのように生物学、医学分野に生かすかを後半で明らかにしたい。